

【香川県三豊市】 校務 DX 計画

1. ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務系・学習系ネットワークの統合

令和 6 年 9 月に整備し、運用を開始する。これに伴い、教師用端末の増台を行うことで、教師 1 人 1 台の環境が整うこととなる。これまで校務系・学習系の 2 台に分かれて作業していたが、1 台の端末にて作業実施できるものとなり、より活用が容易となったことで、これまで以上に校務 DX の推進が加速していくことが見込まれる。

(2) 次世代校務支援システムの整備

令和 6 年 9 月にクラウド版校務支援システムを整備する。これによりロケーションフリーでの校務作業が可能となる。また、各種外部システムとの連携が可能となることで、これまで多大なコストを要していた年度更新作業の名簿管理などの効率化と教職員の業務負担の軽減が可能となる。令和 11 年度までに県域での整備を実施する予定である。

2. 校務の効率化・ペーパーレス化

校務の効率化及びペーパーレス化に向けて、学校・教育委員会が連携して以下の内容に取り組んでいる。

- 学校と児童生徒間でのデータ共有については、Google クラウドスルームを活用している。
- 学校と保護者間でのデータ共有やアンケートなどについては、学校ホームページ及び保護者連絡アプリを活用している。
- 市教育委員会と学校間でのデータ共有については、校務支援システムを活用している。
- 教育ダッシュボードの構築は、クラウド版校務支援システム及び学習 e ポータルにて整備・運用していく予定。これにより、児童生徒の出欠席や成績情報などの校務系データ、AI ドリルや授業支援ソフトでの学習の状況などの学習系データなどの膨大なデータの分析と可視化が可能となる。
- 校務の効率化及び質の向上に向け、生成 AI の取り入れについて支援していく。国の実証研究による実践事例や市内教職員の使用事例などを展開することで、生成 AI の使用に対するハードルを下げ、より活用が推進されるようにする。
- 令和 6 年度より、中学校へデジタル採点システムを導入することで、採点業務の効率化を図っている。

今後、Google チャットをはじめとするクラウドサービスを活用し、職員会や学校間での資料共有などにおける、ペーパーレス化と効率化を図っていく。

3. FAX 及び押印の見直し

学校-学校間、学校-教育委員会間での文書連絡・資料送付については、校務支援システム内のグループウェアにてほぼすべて対応している。

FAX の原則廃止に向けては、令和 7 年度中に対応する。市教育委員会から市役所関係部署および

学校とやり取りのある事業者に対して、慣行の見直しを依頼する旨の取組をすすめていく。

各種押印が必要な文書の見直しについては、校務支援システム導入時の令和2年より実施している。今後も引き続き見直しを行い、ペーパーレス化の推進とともに令和 7 年度中に原則廃止とできるよう削減を進めていく。

【香川県三豊市観音寺市学校組合】

校務 DX 計画

1. ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務系・学習系ネットワークの統合

令和 6 年 9 月に整備し、運用を開始する。これに伴い、教師用端末の増台を行うことで、教師 1 人 1 台の環境が整うこととなる。これまで校務系・学習系の 2 台に分かれて作業していたが、1 台の端末にて作業実施できるものとなり、より活用が容易となったことで、これまで以上に校務 DX の推進が加速していくことが見込まれる。

(2) 次世代校務支援システムの整備

令和 6 年 9 月にクラウド版校務支援システムを整備する。これによりロケーションフリーでの校務作業が可能となる。また、各種外部システムとの連携が可能となることで、これまで多大なコストを要していた年度更新作業の名簿管理などの効率化と教職員の業務負担の軽減が可能となる。令和 11 年度までに県域での整備を実施する予定である。

2. 校務の効率化・ペーパーレス化

校務の効率化及びペーパーレス化に向けて、学校・教育委員会が連携して以下の内容に取り組んでいる。

- 学校と児童生徒間でのデータ共有については、Google クラウドスルームを活用している。
- 学校と保護者間でのデータ共有やアンケートなどについては、学校ホームページ及び保護者連絡アプリを活用している。
- 市教育委員会と学校間でのデータ共有については、校務支援システムを活用している。
- 教育ダッシュボードの構築は、クラウド版校務支援システム及び学習 e ポータルにて整備・運用していく予定。これにより、児童生徒の出欠席や成績情報などの校務系データ、AI ドリルや授業支援ソフトでの学習の状況などの学習系データなどの膨大なデータの分析と可視化が可能となる。
- 校務の効率化及び質の向上に向け、生成 AI の取り入れについて支援していく。国の実証研究による実践事例や市内教職員の使用事例などを展開することで、生成 AI の使用に対するハードルを下げ、より活用が推進されるようにする。
- 令和 6 年度より、中学校へデジタル採点システムを導入することで、採点業務の効率化を図っている。

今後、Google チャットをはじめとするクラウドサービスを活用し、職員会や学校間での資料共有などにおける、ペーパーレス化と効率化を図っていく。

3. FAX 及び押印の見直し

学校-学校間、学校-教育委員会間での文書連絡・資料送付については、校務支援システム内のグループウェアにてほぼすべて対応している。

FAX の原則廃止に向けては、令和 7 年度中に対応する。市教育委員会から市役所関係部署および

学校とやり取りのある事業者に対して、慣行の見直しを依頼する旨の取組をすすめていく。

各種押印が必要な文書の見直しについては、校務支援システム導入時の令和2年より実施している。今後も引き続き見直しを行い、ペーパーレス化の推進とともに令和 7 年度中に原則廃止とできるよう削減を進めていく。